



2025年2月3日

各 位

会 社 名 株式会社日本ケアサプライ
代表者名 代表取締役社長 平松 雅之
(コード：2393、東証スタンダード市場)
問合せ先 経理部長 坂巻 登
(TEL. 03-5733-0381)

長期ビジョン策定のお知らせ

当社は、2040年度を目標とした長期ビジョン「けあさぶ Vision2040」を策定いたしましたので、お知らせいたします。

少子高齢化・人口減少が進む中で、多様化するニーズに応える価値を提供し、2040年度に向けた当社のありたい姿を定め、持続可能な成長の実現のため、当社は、「自分らしく生きる。明るい未来の共創」を長期ビジョンのスローガンに、さらなる成長を実現するべく、取引先、株主・投資家、地域社会、従業員などのステークホルダーとの協働により新たな価値創造に取り組んでまいります。

詳細につきましては、添付資料をご覧ください。

以 上

長期ビジョン「けあさぶVISION2040」 策定について

2025年2月3日

株式会社日本ケアサプライ
東証スタンダード:2393

豊かな「健康長寿社会」のために、大きな包容力をもって社会に貢献する企業を目指します。

「けあさびVISION2040」

2040年に実現したい社会

高齢者を含むすべての人が、地域に貢献しながら「自分らしく」生きることができる社会

若い世代も高齢者も全世代が支え合える社会

健康で豊かな生活を送れる社会



ありたい姿

高齢者を含むすべての人のより良い暮らしに必要なサービスを提供できる企業

ステークホルダーと共に社会課題を解決しながら、成長できる企業

「自分らしく」生きられる選択肢を提供し続けられる企業

2040年度に向けた長期ビジョンとして
「けあさびVISION2040」～自分らしく生きる。明るい未来の共創*1～
を定め、持続可能な健康長寿社会の実現を目指します。

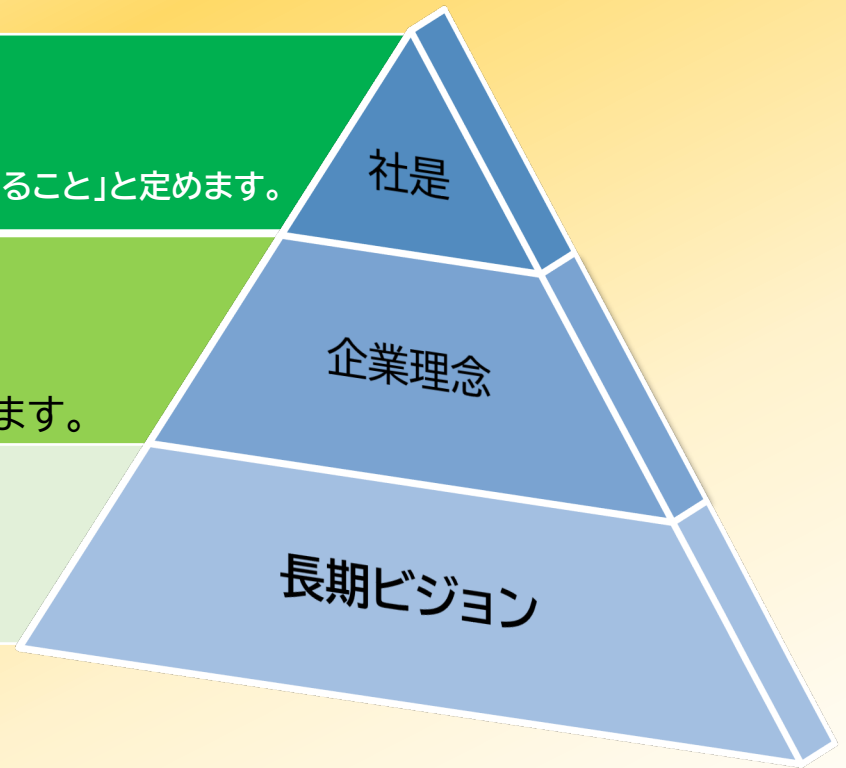
「健康長寿社会への貢献」

当社が考える「健康」とは、WHOの定義*2に加えて、
「いくつになっても社会参加でき、自分らしく生活できる状態にあること」と定めます。

- ・私たちは「品質第一」に徹し、
安心で清潔な商品を提供します。
- ・私たちは「誠実第一」に徹し、
丁寧で真心を込めたサービスを提供します。

「けあさびVISION2040」

～自分らしく生きる。明るい未来の共創～



*1:企業が、ステークホルダー(利害関係者)と協働しながら事業を行い、新たな価値を創造すること。

*2:病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること。

①高齢者人口がピーク、労働者人口の減少

- ・超高齢社会を少ない人材で支え、医療・介護費の増加
- ・ボリューム層の団塊世代ジュニアの高齢化
- ・都市部と地方との格差が拡大(地域経済の縮小)
- ・独居(特に男性)世帯の増加
- ・中国をはじめとしたアジア地域で高齢化が進展



②ニーズの多様化

- ・自力での生活を望む高齢者の増加
- ・地域の実情に合わせた介護保険外サービスの創出
- ・医療、介護の予防の意識向上および生活習慣の改善
- ・SDGsの次は、SWG(Sustainable Well-being Goals)*

③テクノロジーの発展

- ・生成AIを始めとしたデジタル技術の進歩
- ・技術革新が産業構造に影響
- ・脱炭素社会の実現による生活環境の変化



*「サステナブル・ウェルビーイング・ゴールズ」

国連が、2030年迄を目標と定めた国際指標の「SDGs」に対し、2045年迄とする次の目標の候補に「SWG」が注目されており、「SDGs」の枠組みを超えて、より深く人間の幸福や福祉に焦点を当てたもので、経済的、環境的、社会的な側面を統合し、持続可能な社会の実現に向けた新たな指針。

「けあさぷVISION2040」ステークホルダーとの向き合い方






サステナビリティへの取り組み（2040年度に向けた2030年度目標）



当社は、従来の資源を有効活用する循環型ビジネスである福祉用レンタルビジネスの推進に加え、以下の「サステナビリティに関する基本方針」に基づき、重点課題を継続的に取り組みます。

～サステナビリティに関する基本方針～

私たちは、社是である「健康長寿社会への貢献」を存在意義と定め、ステークホルダーの皆様との協働により、豊かな暮らしに役立つ商品やサービスの提供によって、社会課題の解決に挑みます。
そして、新しい価値の創造と健全な事業活動を通じて、中長期的な企業価値向上を追求し、持続可能な社会の実現に貢献することを目指します。

重点課題	目標*
Environment 環境	<ul style="list-style-type: none"> GHG排出量: 政府目標に準じて半減 売上高エネルギー使用量比率(kl/億円) 売上高廃棄物総量比率(t/億円) <div style="text-align: right;">  <p>: 省エネ法の努力義務及び目標に準じて、毎年1%程度削減</p> </div>
Social 社会	<ul style="list-style-type: none"> 重大労働災害件数: 0件 人材開発投資額(外注費用): 倍増(28千円/人) 有給休暇取得率: 70% 育休取得率、復帰率: 100% <div style="text-align: right;">  </div>
Governance 企業統治	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス違反件数: 0件 情報セキュリティ事故件数: 0件 個人情報漏洩件数: 0件 <div style="text-align: right;">  </div>

※目標値は、2022年度+αを基準に2030年度目標を表示しております。新たな目標値策定の際は、内容を更新します。

事業拡大のイメージとキャッシュ・アロケーション (2040年度に向けた2030年度目標)

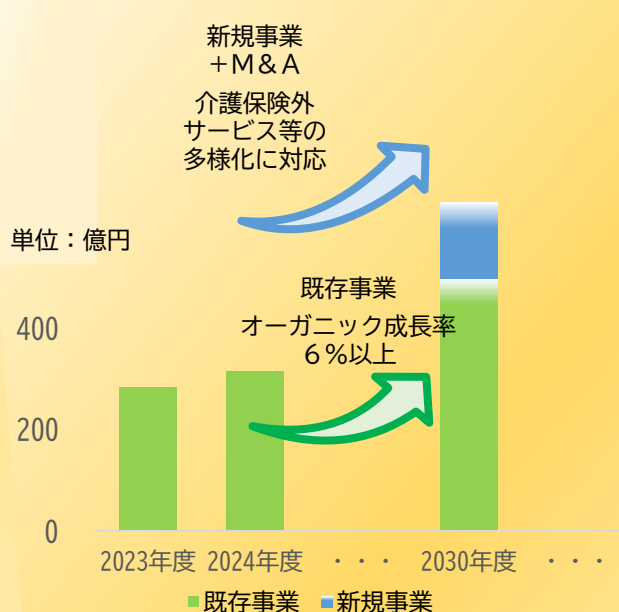


着実な成長を目指し、経営資源の配分方針により、企業価値の最大化を図ります。

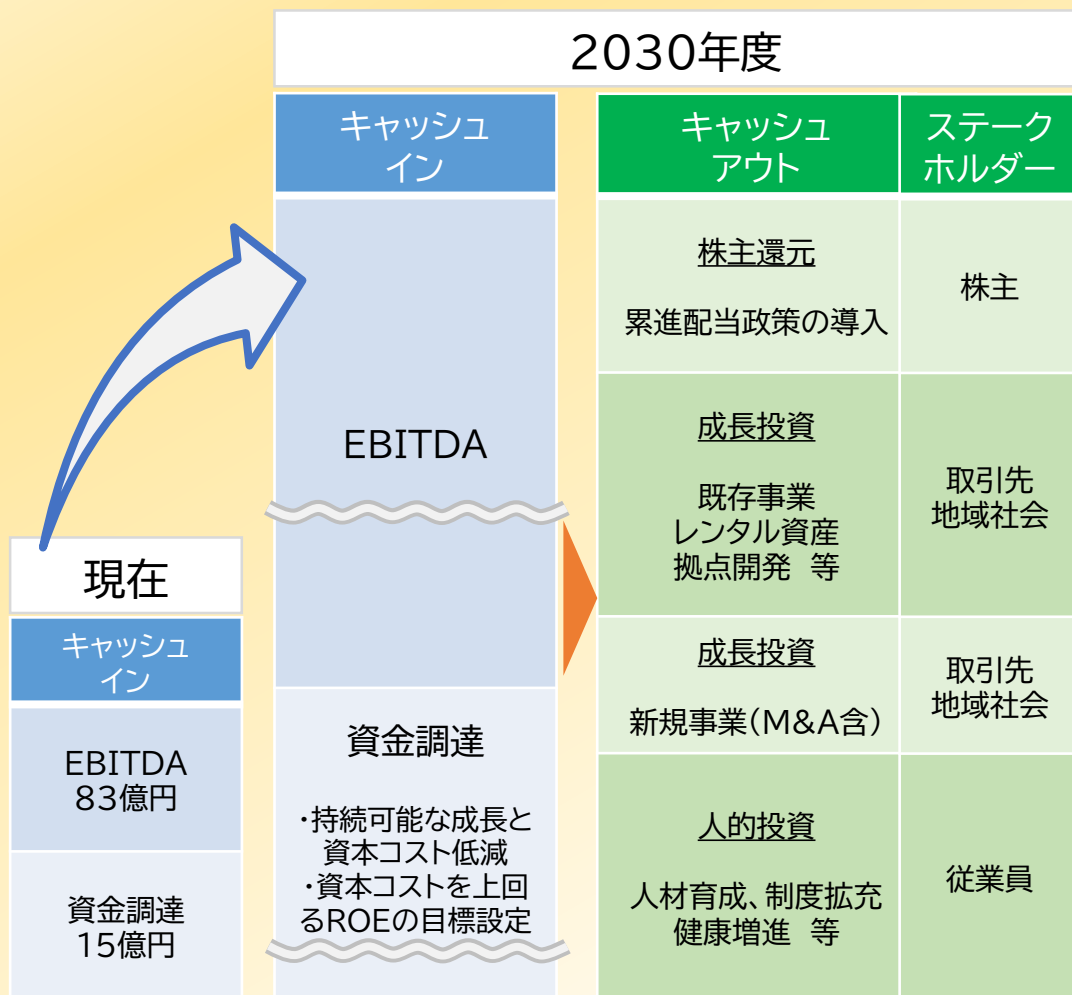
※目標値は、2030年度を表示しております。以降の目標は、適宜見直しいたします。

売上成長のイメージ

2030年度迄を想定する事業規模予想



2030年度

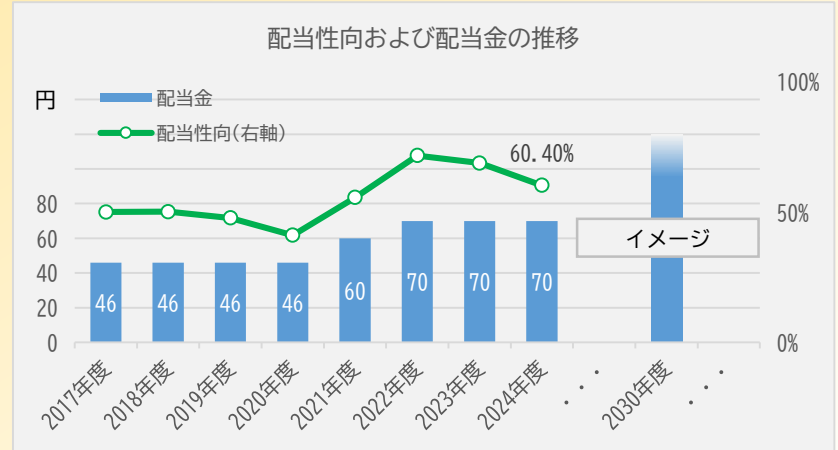
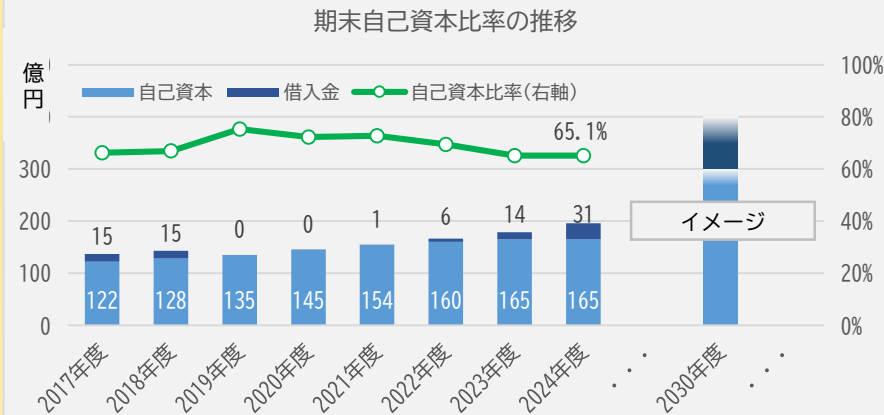
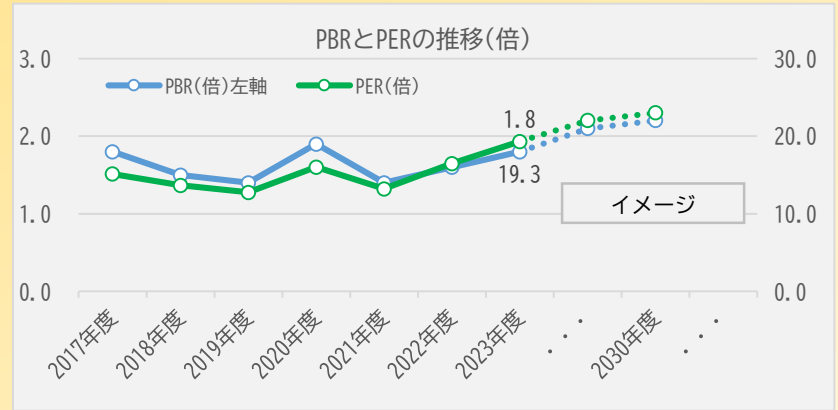


財務基盤の強化（2040年度に向けた2030年度目標）

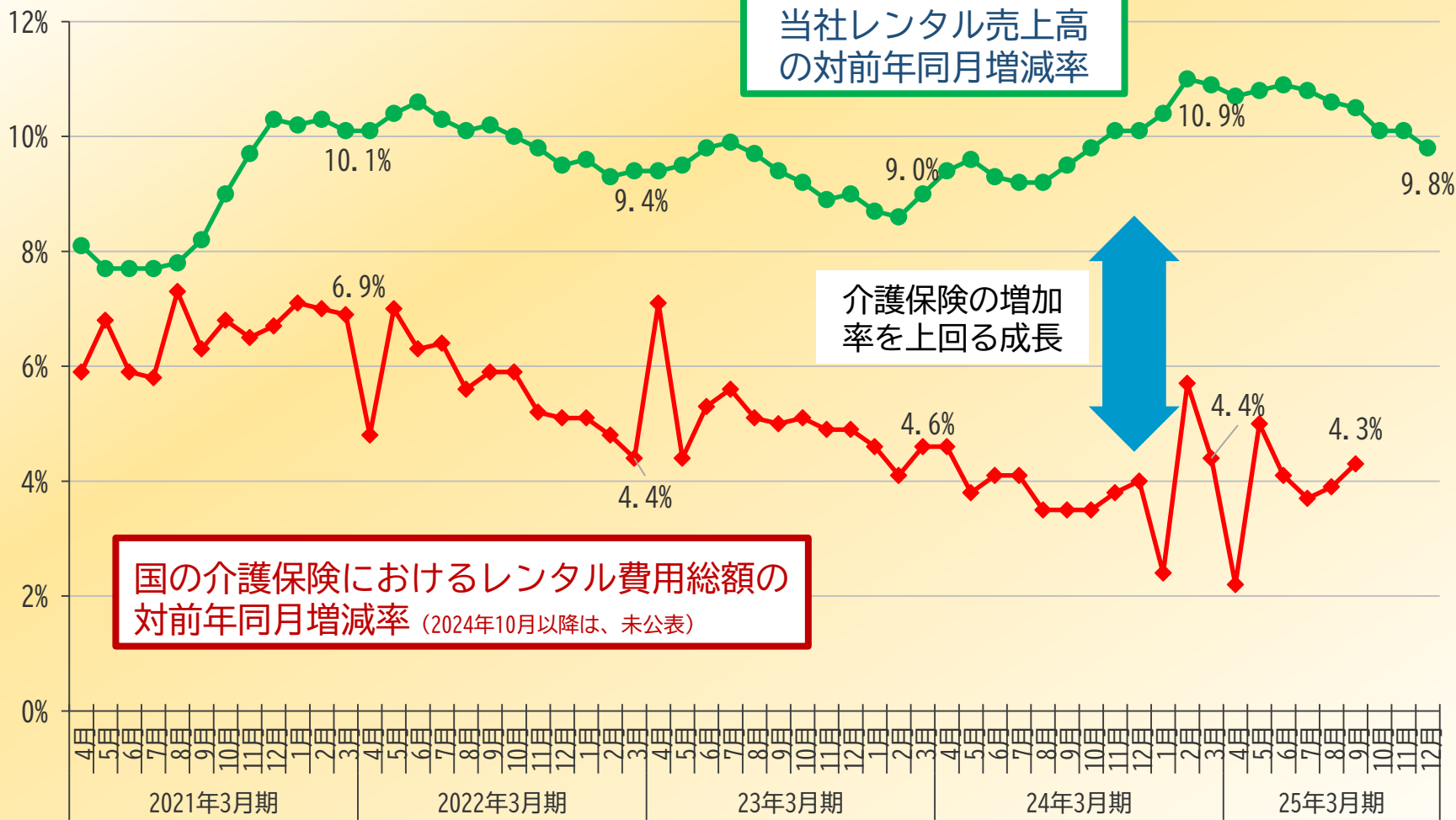
※目標値は、2030年度を表示しております。以降の目標は、適宜見直いたします。

2030年に向けた財務戦略

- ・福祉用具レンタル市場の伸びを上回る、売上高のオーガニック成長6%以上
- ・M&Aに積極的に取り組む 業界水平統合に加えて、高齢者支援サービス事業の基盤整備へ
- ・資本コストを上回るエクイティスプレッド5%以上の確保、当期純利益成長CAGR5%
- ・累進配当制の導入+DOE目標 DOE6%を下限とする (DOE:株主資本配当率)
- ・借入金等を活用した財務レバレッジを利かせた経営の推進
- ・PBR/PERの分析と改善策への取組み



<参考> 介護保険の福祉用具レンタル需要を上回る成長率



出所：(公)国民健康保険中央会資料より当社作成

<参考> 循環型のビジネスモデル (福祉用具レンタル卸)

当社が手掛ける福祉用具レンタル卸事業は、介護保険の対象となるベッド、車いす等の福祉用具を地域の「福祉用具貸与事業者」(以下、事業者)にレンタルし、さらに「事業者」が「利用者」に貸出します。使用後返却された福祉用具は、当社が洗浄・消毒、検品・修理して、再び「事業者」に貸出すリサイクルシステムです。

資源を有効利用する循環型のビジネスモデルであり、当社が先駆けとなってこの仕組みを確立しました。

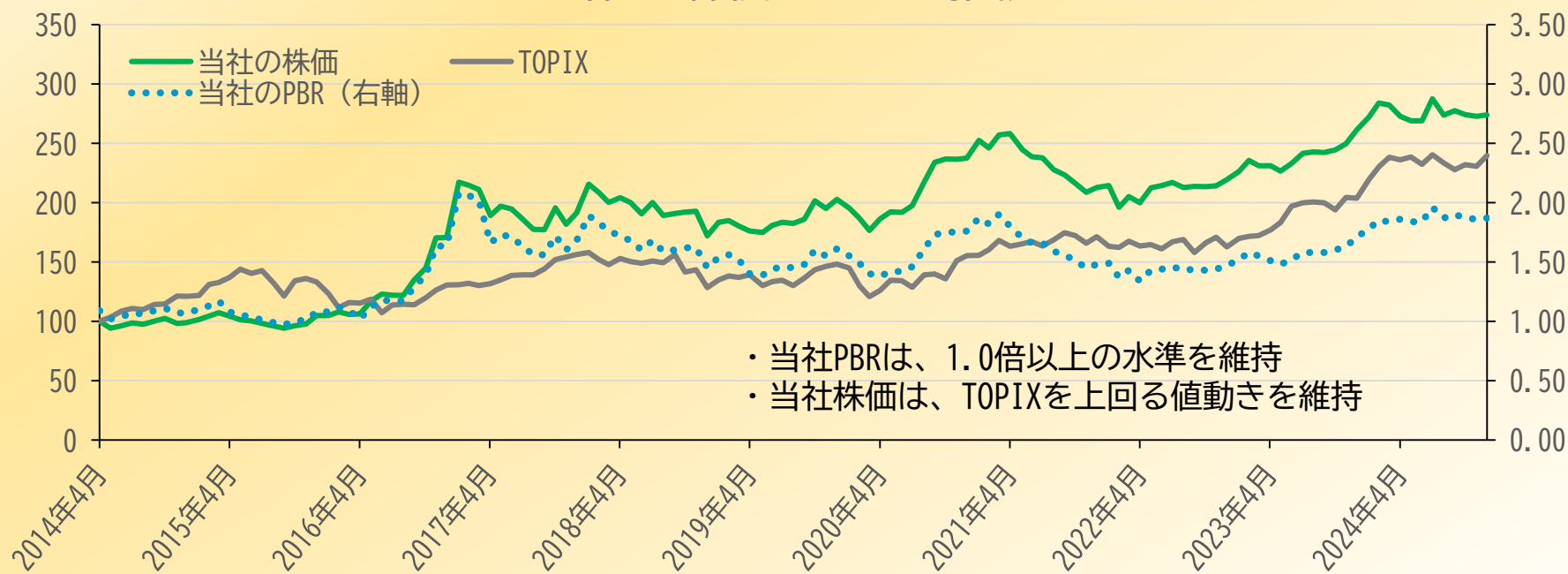


<参考> 株価に関連した指標の推移



	2015年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期	19年3月期	20年3月期	21年3月期	22年3月期	23年3月期	24年3月期
当社の期末株価 (円)	746	736	1,466	1,390	1,254	1,227	1,786	1,425	1,605	1,962
期末TOPIX	1,543.11	1,347.20	1,512.60	1,716.30	1,591.64	1,403.04	1,954.00	1,946.40	2,003.50	2,768.62
当社の期末PBR (倍)	1.17	1.09	2.02	1.76	1.52	1.40	1.90	1.43	1.55	1.84

当社の株価*とPBRの推移



- ・当社PBRは、1.0倍以上の水準を維持
- ・当社株価は、TOPIXを上回る値動きを維持

*当社の株価とTOPIXは、2014年4月を「100」として指数化



健康長寿社会への貢献